大阪「フェスティバルゲート」

前から気になっていたが、通天閣に行く途中で「フェスティバルゲート」に行った。フェスティバルゲートは 1997 年に開園した「都市型立体遊園地」であり、当初は賑わっていたというが、数年後には入場者数は激減し、管理会社は倒産してしまう。ネットで資料を検索してみると、「フェスティバルゲートあり方検討会議報告書」（2006 年 10 月）というのがあった。これによると、フェスティバルゲートは大阪市交通局が所有する霞町用地を土地信託方式により事業展開したものである。事業化の時期はまさにバブルの頃だ。信託銀行は収支の悪化などを理由に信託契約の解除を申し立て、2004 年に調停が成立した。大阪市は最終的に 200 億円もの赤字を補てんすることになるという。検討会議は、「交通局だけの問題ではなく、大阪市全体で取り組むべき事項である」として、今後のあり方に関する検討結果をまとめた。どちらに進むにせよ、前途は多難なようだ。

現在は建物の 90%以上が空室であり、2 階から 6 階は客の通行はほとんどない。土曜日の昼ごろに行ったが、とにかく閑散としており、寒々として気味の悪いほどであった。

まさに「廃墟」という感じだ。通天閣界隈の賑わいと対照的である。

なぜ、このような建物を造成したのか。たんにバブルで浮かれていただけでは、すま

されないであろう。なにかと問題が指摘される大阪市であるが、この「廃墟」を実際に訪ねてみて、その感をさらに強くした。

（2007 年 2 月 24 日　記）